

【 APRS での位置表現 (座標表現) 】

地図の座標表現にはいろいろな種類があり、混乱しやすいので注意が必要です。今回は、APRS(UI-VIEW)での使用されている座標表現について考察します。各局今一度、確認してみてください。なお大前提として、測地系はWGS84(世界測地系)です。日本製の地図では未だに日本測地系がデフォルトになっている場合が多いので、注意が必要です。測地系に関しては、別途解説します。

APRS での座標表現は『ddd.mm.ss』の形式になっています。

ddd:2 又は 3 桁の「度」
mm:2 桁の「分」
ss: 秒を小数点以下 2 桁で「分」表現したもの

注意が必要なのは『ss』の算出です。この『ss』の「単位」は実は分なのです。(ProAtlas ではこのような表現は出来ません)

具体的には、

00 秒 = 0.00 分
10 秒 = 0.166666 分
30 秒 = 0.5 分
59 秒 = 0.983333 分

この小数点以下 2 桁を『ss』として使用します。

たとえば、139 度 43 分 26.63 秒を APRS での座標表現に変換する場合。

139 度 => ddd => 139
43 分 => mm => 43
26.63 秒 => 26.63 秒 ÷ 60 秒 = 0.44383 分 => ss => 44

よって、APRS で使用する座標は

139.43.44E

という表現になります。(東経の場合 139.43.44E と、「E」を付加)

by JF1AJE (2004/10/30) [不許複製、転載]